

世界仏教文化研究センター応用研究部門萌芽的公募研究 採用審査要項

2017（平成29）年7月14日 制定

1. 審査委員会の構成

審査委員会は世界仏教文化研究センター長を委員長、応用研究部門長を副委員長とする。審査委員は、世界仏教文化研究センター運営委員会委員および常設研究班の中から運営委員会で選出した者4名で構成する。

ただし、審査委員が審査対象となる研究プロジェクトの研究員である場合は、当該研究プロジェクトの審査には加わらないものとする。

2. 採用対象

次の研究テーマに関するものであること

「世界の苦悩に向き合う智慧と慈悲—仏教の実践的研究」

※仏教・浄土教を機軸として、現代世界の苦悩や悲嘆に全人的に向き合い、社会の困難を和らげることにつながる実践を産みだす研究を推進するためにこの研究を募集します。

3. 審査基準

- (1) 我が国の学術の現状を踏まえ、世界仏教文化研究センターの応用研究部門の設置目的に即した研究内容であること。
- (2) 研究課題の選定に当たっては、研究目的の明確性、研究の独創性、当該学問分野及び関連学問分野への貢献度等を考慮する。
- (3) 当該研究者の従来研究成果をも厳正に評価した上で、研究成果が期待でき、研究終了後に研究成果の公表がなされるものを選定する。
- (4) 共同研究は、研究組織の構成が適切であり、かつ、各々の研究分担者の果たす役割が明確であること。
- (5) 研究計画が適正で、研究経費の算出が合理的であること。

4. 選定方法

次の審査基準項目にしたがって、5段階評価方式による点数で評価を行い、一定の水準以上の研究を選定する。なお、不明な点がある場合は、審査委員会はヒアリングを行うことができる。

- ① 研究目的の明確性
広い領域を包括するような漠然としたものではなく、具体的な目標が明確に設定されているか否か。
- ② 研究の独創性
研究目的・研究計画・研究方法等が独創的な特色ある研究であるか否か。
- ③ 当該学問分野・関連学問分野および仏教諸研究への貢献度
当該学問分野・関連学問分野等への貢献、ならびに仏教諸研究との連携が期待できるか否か。
- ④ 従来研究経過・研究成果等の評価
従来受けた研究費での研究経過・研究成果は期待どおりのものであったか。また、その成果等が今回の研究計画に十分活かされているか否か。
- ⑤ 研究計画の妥当性
研究計画が十分に練られ、研究組織の構成、研究遂行の能力、研究経費の算出等が当該研究の目的を達成する上で適切であるか否か。

5. 審査法と評点区分（評価基準）

次の評点区分（評価基準）にしたがって、いずれかの評点を付す。

なお、採否の決定に際し強い影響力をもつ評価「5」や「1」の評点については、その評点を付すに至った根拠についてコメントを記すのが望ましい。コメントが付されない場合は、審査結果にその評価が十分に反映されないことがある。

評点区分	評 価 基 準
5	非常に優れている
4	優れている
3	良好である
2	やや劣っている
1	採択に値しない

6. 申請書の公開

世界仏教文化研究センターホームページにおいて公開する。

以 上